



## 高齢者のシーティング (その3)

川村一郎

### 歩行不能な高齢者のシーティングの基本

多数の歩行不能な高齢者、特に障害が重度で施設でのケアを必要とする人達では、特別なシーティングのニーズが大きい。これらの人達は、高齢者用の椅子か伝統的な標準型車椅子に座って、座り心地のよくない長時間を過ごす。標準型車椅子は、そもそも自力走行による移動のために設計されたものであって、そこで不適切な姿勢で長時間座っていることは有害である。即ち、褥瘡を発生させたり、屈曲拘縮が生じたりすると共に、貧弱な支持性によって、或いは車椅子から降りようととして転落してりすることによる外傷を生み出すこともある。

高齢者のシーティングの問題は、最近になって多くの各種センターの臨床家や研究者によって取り上げられるようになってきた。その結果、障害を持つ高齢者のためのシーティングの開発に大いなる成果を上げることができた。

歩行不能高齢者のためのシーティングは、歩行可能高齢者と同じ項目で論ずることができる。つまり、

- 1) アクセスしやすい
- 2) 姿勢の安定性
- 3) 快適さ
- 4) 圧力が均等に分布する
- 5) 安全性
- 6) 実用性



第2図



第3図

#### 1) アクセスしやすい

歩行不能高齢者にとって、シーティングシステムへの乗り移りやすさ、及び降りやすさは、重要な要因である。介護者が高齢者を容易に、また安全にシーティングに乗せたり降ろしたりできることが必要である。信頼できるブレーキシステム、取り外し可能なアームレスト、取り外し可能か、又はスウィングアウェイするフットレスが必要とされる。

#### 2) 姿勢の安定性

多くの障害を持つ高齢者にとって、姿勢の安定性を獲得することは困難である。標準型車椅子は、この点で多くの問題を抱えている。

スリングシートや柔らかいスリング背もたれはハンモッキング効果を生み、患者が車椅子の中で姿勢を変えることを妨げる(第1図)。

そこには、体幹の側方からのサポートがなく、背中、首、頭部の支えもない。高齢者は、しばしば車椅子の中で側方に傾き、屈曲して前方に倒れる。(第2図、第3図)。

高齢者のための新しいタイプのシーティングシステムでは、快適性を得るためにしっかりした固いシートや、体のカーブに合致した背もたれが必須のものとなっている。シートのクッションは、骨盤の安定性を得るために、また椅子の中で患者が前方に滑り出すのを防止するために、前後に少し楔状になっている必要がある。いくつかのセンターで、骨盤を安定させるための他の方法が開発され評価を受けている。

背もたれは、固く、脊柱の全長をカバーし、脊柱の生理的彎曲に合致した形になっている必要がある。側方からのサポートも必要である。ヘッドレストをバックレストの上にとりつけるか、或いはビルトインする。フレキシブルにモジュラーシステム、或いは調節システムが導入しいろいろな体形の変化や脊柱変形に対応できるようにしておく。一般に、背もたれを少し(大体10°位)傾けると快適さを増し、姿勢の安定性を増加する。



第1図  
柔らかいスリングシートに座ることによって生ずるハンモッキング効果



